

# 認定描画療法士研修基礎コースにおける教育実践報告

## 『描画による心理的支援の基礎と職業倫理』

鈴江 毅<sup>\*1</sup>

### Practical Report of Workshop for Training Certified Drawing Therapist “Basic and Professional Ethics of Psychological Support by Drawing”

Takeshi Suzue<sup>\*1</sup>

#### 要旨

近年、社会のメンタルヘルスへの関心は非常に高くなり、社会のあらゆる分野でメンタルヘルス対策は喫緊の課題となっている。それらの対策の中で、カウンセリングは基本的かつ効果的と考えられ、担当者として質の良いカウンセラーが社会から求められている。今回、日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士の資格取得を目指すカウンセラーを対象に、養成研修を行ったので研修内容を報告する。

今回担当した研修は、認定描画療法士研修基礎コース『描画による心理的支援の基礎と職業倫理』であった。受講者は27名であった。研修内容としてはまず、「1. 描画による心理的支援の基礎」として、描画テストと描画療法について概観した。次に「2. 職業倫理」として職業倫理の7原則を挙げ、描画を用いた査定、セラピーにおける注意点を、具体的な例を挙げて説明した。講座の参加により、描画テスト・描画療法の基本が身に付き、実際の描画テストや描画療法を行う際に倫理面を中心に参考になるとの受講者の反応が得られた。

キーワード：認定描画療法士、カウンセラー、描画テスト、描画療法、臨床心理

#### 1. はじめに

近年、社会のメンタルヘルスへの関心は非常に高くなり、社会のあらゆる分野でメンタルヘルス対策は喫緊の課題となっている。その中で、カウンセリングは基本的かつ効果的な対策であり、不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊、職場のストレス対策、過労死、自殺、犯罪被害者など、カウンセリングの需要も逼迫している。小中高等学校には、臨床心理士を中心としたスクールカウンセラーが配置され、その人数は年々増加している（青木ら、2020）。大学における学生相談員も重視されつつあり、産業界においても産業カウンセラーが求められている（桶谷、2022）。他方、全国の上死者は年間2万人を前後しており、それらの人々のカウンセリングも必要で、適切なカウンセリングを受けていれば自殺は防ぐことができたかもしれない（堀井、2021）。このように現在ではカウンセリングの需要は高く、カウンセラーの増員が続けられてきた。しかし、その人数は十分ではなく、今後、質の良いカウンセラーの養成が急がれる（増井、2019；岩壁、2019）。

日本描画テスト・描画療法学会は、1984年に設立された家族画研究会を前身とし、1991年より日本描画テスト・描画療法学会として設立された。現在500名余の会員を有し、年に1回大会を開催し、学会誌「臨床描画研究」を刊行している。学会として、従来より描画テストや描画療法の啓発・普及に努めていたが、2015年よりカウンセラーの質向上を目的に「認定描画療法士」資格を創設した（日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士、2024）（表1 日本描画テスト・描画療法学会 認定描画療法士 認定規程）。

今回、日本描画テスト・描画療法学会認定臨床描画士の資格取得のための研修会において、医療関係者、福祉関係者、教育関係者など対象に、『描画による心理的支援の基礎と職業倫理』の研修を行ったので、その経験を報告する。

\*1：姫路大学看護学部・Himeji University, School of Nursing

表1 日本描画テスト・描画療学会認定描画療法士認定規程

第1条（目的）	本資格は、描画によるアセスメントや心理面接に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行える会員に対して、日本描画テスト・描画療学会認定描画療法士（以下、描画療法士）の称号を付与するものである。
第2条（資格の認定及び要件）	以下の要件を全て満たし、かつ資格研修委員会及び常任理事会で承認され、申請年度までの会費及び所定の認定費用を納めた者を描画療法士として認定し、「日本描画テスト・描画療学会認定描画療法士」の証書を授与する。 1 本学会に入会して2年以上が経過していること 2 本学会の大会に2回以上参加していること 3 本学会が主催する認定描画療法士研修の基礎コースを受講済みであること 4 描画による臨床実践経験を3年以上有すること
第3条（資格の更新）	日本描画テスト・描画療学会認定描画療法士認定更新内規に定めるとおり、5年ごとに資格の更新を行わねばならない。
第4条（運営機関）	1 本制度の認定業務は資格研修委員会（以下、委員会）が担当し、これにかかわる事務は資格研修事務局が担当する。 2 委員会は理事等から委員を若干名選出して構成し、委員会内に委員長及び資格研修事務局長を置く。
第5条（資格の取り消し）	学会を退会した場合は、本資格を喪失する。また描画療法士として不適切な行為等が認められた場合には、委員会の審議を経て理事会において、本資格を取り消されることがある。
第6条（規程の変更）	本規程の変更は委員会において検討し、理事会の承認を得て行う。

## Ⅱ. 方法

研修会は2024年9月23日に開催された日本描画テスト・描画療学会第33回大会に先立って、前日の22日に午前・午後と1日かけて行われた。認定描画療法士研修（基礎コース）『描画による心理的支援の基礎と職業倫理』は、講義、スライド上映、実習などを交えて約60分間かけて行われた。研修参加者は27名であった。

開催した研修会の概要については、下記の通りである。

研修会名：認定描画療法士研修（基礎コース）『描画による心理的支援の基礎と職業倫理』

開催日時：2024年9月22日

開催会場：金沢歌劇座（金沢市）

対象者：認定描画療法士資格取得希望者（27名）

主催：日本描画テスト・描画療学会

研修会の目的：描画による心理的支援の基礎および職業倫理に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行えるようになる

研修内容：

### 1. 描画による心理的支援の基礎

研修内容としてはまず、「描画による心理的支援の基礎」として、描画テストにおける心理アセスメントや投影法の活用と描画療法における心理療法や芸術療法の位置づけなどについて概観した（図1 査定「描画テスト」と治療「描画療法」）。描画テストの定義

「描画テストとは、心理臨床の場において何らかの目的を持って、被験者に鉛筆やクレヨンなどを与え、紙上に何かを表現させるテストである」を紹介した。質問紙法は実施が容易であり、結果を数量的に処理でき、標準化された資料と比較して解釈できる。しかしその条件は、クライアントが、質問の意味を理解でき、自分の心の状態を内省でき、作為なしに結果を答える、ことができる場合であるが、臨床場面のクライアントは、この条件に該当しないことが多い。臨床場面においては、クライアント自身が明確に気づいていない心の状態を知る必要がある（高橋，1974）（図2 Schneiderman, E. (1956) の図式）。

心理療法においては、認知行動療法や精神分析など様々なセラピーが行われているが、そのなかで芸術療法（アートセラピー）という分野がある。芸術療法は、絵画や造形などの芸術を通して心のケアを行う心理療



図1 査定（描画テスト）と治療（描画療法）

Level of Awareness	Type of Test	Type of Perception
CONSCIOUS	Paper-and-Pencil	EGO DEFENSIVE
PRECONSCIOUS	Picture-Thematic	PSYCHO-SOCIAL
UNCONSCIOUS	Rorschach	PRIMARY

図2 Schneidman, E. (1956) の図

法の一つである。その種類としては、描画（絵画）療法、音楽療法、コラージュ療法、舞踏療法、造形療法、箱庭療法などがある。それらのなかでも、簡便で、取り掛かりやすく、準備物も比較的少なく、行われやすいのが描画療法である（コッホ、2010；福屋、1996）。描画療法は非言語的コミュニケーションの側面が大きく、言語的コミュニケーションの苦手な子どもや障害者などにも適応できる心理療法であると考えられた（ノフ、2020）。

## 2. 職業倫理

次に、心理的支援における重要な側面である「職業倫理」について解説した。心理臨床の場においては「職業倫理の7原則」にのっとりた態度が求められる（金沢、2021）（表2 職業倫理の7原則）。各項目について、描画テストおよび描画療法に関係する部分については具体例を挙げて解説した（若島、2009）。

表2 職業倫理の7原則

- 第1原則：相手を傷つけない、傷つけるようなおそれのあることをしない
- 第2原則：十分な教育・訓練によって身につけた専門的な行動の範囲内で、相手の健康と福祉に寄与する
- 第3原則：相手を利己的に利用しない
- 第4原則：一人一人を人間として尊重する
- 第5原則：秘密を守る
- 第6原則：インフォームド・コンセントを得、相手の自己決定権を尊重する
- 第7原則：すべての人々を公平に扱い、社会的な正義と公正と平等の精神を具現する

描画テスト・描画療法による心理的支援の臨床においては、「職業倫理の7原則」にのっとりた態度が求められる。また研究面においても、各倫理綱領や倫理

委員会などの原則をはずれないことが求められる（松下、2017）。

## Ⅲ. 振り返り

心理カウンセラーの職務としての、心理カウンセリングは、人間心理に纏わる、専門的な職務であり、学術的かつ倫理的な面も含めて、高度の専門性が期待される職務である。それに対して、心理カウンセラー関係の質の担保も含めて十分な研修が必要だと考えられる。今回行った定例認定描画療法士研修（基礎コース）における参加者の多くは、認定描画療法士の資格取得希望カウンセラーとして、全くの未経験者は少なく、学術的にも臨床経験的にも、ある程度の基礎的素養のある者だったことが伺われた。このことは、資格取得後の認定描画療法士の質を高めるためには重要な点と思われた。

研修会の内容としてまず、「1. 描画による心理的支援の基礎」として、描画テストと描画療法について概観した。本研修の最終目標である「描画によるアセスメントや心理面接に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行える」という会員を養成するにあたって基本となる事項であった。特に心理アセスメントや心理療法の全体と対比した描画療法の位置づけや重要性に関して基本的な知識を伝えることができた。次に「2. 職業倫理」で、描画テストおよび描画療法を行うにあたって必要な職業倫理について、初心者にも分かりやすい形でその重要性を説明できた。

最終的に研修会の最初に提示した目的である「描画によるアセスメントや心理面接に関する基礎的な知識と技能を有し、職業倫理を踏まえた実践を行える」描画療法士の養成に資することができたものと考えられる。しかしながら、以上はあくまでも主観的評価であり、客観的な評価としては、研修会終了後の質疑応答のなかで一部の参加者からの反応から推測されたものの、不十分なものに留まった。今後の研究を進めるにあたっては、研修会の参加者に研修前後にアンケートを行うなど、客観的評価を十分に取り入れたい。

将来的にはさらに心理カウンセラーの質向上を目指し、一般的知識の伝授にとどまらず、ロールプレイやシミュレーションを用いたカリキュラムを作成し、それを基にした高度で実践的な研修を継続的に行い、質の高い認定描画療法士の育成に貢献したいと考えている。

## Ⅳ. まとめ

日本描画テスト・描画療法学会が設立している、認

定描画療法士について紹介すると共に、資格取得を目指す人々を対象に行った研修会の内容について報告した。

研修は「認定描画療法士研修基礎コース：描画による心理的支援の基礎と職業倫理」として行われた。研修内容としては、「1. 描画による心理的支援の基礎」「2. 職業倫理」の二部構成で行った。

今後、さらに心理カウンセラーの質向上を目指し、高度で実践的な研修を継続的にを行い、質の高い認定描画療法士の育成に貢献したいと考えている。

本研究に関して開示すべきCOI（利益相反）はない。

### 参考文献

- 青木真理, 林 裕子, 山本 岳, 他 (2020). これからのスクールカウンセラー「チーム学校」構想における常勤としての働き方, 活用の仕方. 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要, 1, 1-8.
- 福屋武人, 松原由枝 (1996). 描画を技法としてどう使うか. 臨床描画研究 XI, 3-22.
- 堀井茂男 (2021). いのちの電話の活動のこれまでとコロナ禍からのこれから. 自殺予防と危機介入, 41 (1), 8-17.
- 岩壁 茂 (2019). 公認心理師の訓練プログラムのあり方 米国の訓練システムとの比較. 精神神経学雑誌, 121, 819-827.
- カール・コッホ (著), 岸本寛史, 中島ナオミ, 宮崎忠男 (翻訳) (2010). バウムテスト [第3版] -心理的見立ての補助手段として. 誠信書房.
- 金沢吉展 (2021). 臨床心理学の倫理を学ぶ. 東京大学出版会.
- 松下姫歌 (2017). 臨床心理学における研究と実践の倫理. 臨床教育実践研究センター紀要, 20, 26-31.
- 増井武士 (2019). 来談者のための治療的面接とはー心理臨床の「質」と公認資格を考える. 遠見書房.
- 日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士 (2024): <http://byoga.jp/byougaryouhoushi.html> (参照 2024年9月20日)
- ハウアード・M・ノフ, H・トンプソン・プラウト (加藤孝正, 神戸誠訳) (2000). 学校画・家族画ハンドブック. 金剛出版.
- 桶谷雅人 (2022). 「メンタルヘルス・カウンセリング活動報告」の報告内容からみた相談の様相ー20年間の保健管理センター年報・紀要の整理からー. 東京工業大学保健管理センター紀要, 53.
- 高橋雅春 (1974). 描画テスト入門. 文教書院.
- 若島孔文, 狐塚貴博, 宇佐美貴章, 他 (2009). 日本における心理学諸学会の倫理規定の現状とその方向性. 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 58 (1), 123-148.